



現場から（最近のニュースから）

演じ続けますか



戦後の日本を象徴するスーパースターで、「ミスタープロ野球」と称された巨人軍終身名誉監督の長嶋茂雄さんが3日に亡くなりました。亡くなったあと、どれほどのスーパースターだったか、交流のあった多くの人が語っています。ほとんどの人が言われるのが、存在だけでオーラがあったということです。だれからも愛された人柄を新聞の担当記者が語っていますが、共通して言われているのは、怒ることはめったになく、いつも前向きで寛大だったこと、また、ほかの人にはない奇想天外、規格外の人だったということです。通夜や告別式で次女の長嶋三奈さんが「父ってどこにいてもいろんな方を笑顔にする」と言われ、野球の勝敗による感情を家庭には持ち込まなかったと言われていました。

そんな長嶋さんでしたが、担当記者のひとりが書いていました。

＊ ＊

長嶋さんが心を開く友は誰なのか。胸の底にある苦しさ、つらさを打ち明ける人はいないのか。郷里の幼なじみ、野球を通じた仲間たちを訪ね続けたが、私が知る限り親友と呼べる人はいなかった。「長嶋茂雄をずっと演じているのも大変なんだよ」とよく笑わせた。明るさの源泉は？縁遠いと思える孤独感は？その大きさ、広さ、深さを私はつかみきれないままだった。（6月4日報知スポーツ＜「長嶋茂雄をずっと演じているのも大変なんだよ」 明るさの源泉は？孤独感は？心を開く友は？＞より）

そして、告別式で王貞治さんが弔辞の最後に「・・・『長嶋茂雄』に戻ってゆっくりとお眠りください。さようなら」と言われたということです。「嶋」ではなく「島」、つまり、一個人に戻ってくださいとの思いがあったのだろうと、新聞の記事にはありました。王さんによると、長嶋さんは苦悩を絶対に人に見せなかったということです。（6月8日日刊スポーツ＜なぜ「長嶋」ではなく「長島」茂雄 告別式弔辞で王貞治さんが一文字に込めた思い＞より）

脳梗塞で倒れた後も、周囲が驚くほど力を尽くしてリハビリに励み、死ぬ直前までがんばって生きようとしていたと言われています。「長嶋茂雄をずっと演じているのも大変なんだよ」と、まわりに言われていたそうですが、最後まで「長嶋茂雄」という人物を演じ続けていたということでしょう。まわりから見たら立派でも、本人はどれほど大変だったのでしょうか。

人間は、ほんとうは弱いです。自分で「こうありたい」と願う人物像を作って、それを演じ続けることは、ものすごく重荷になります。それをやり遂げた人を立派だと言うのでしょうか、それは本当のその人の姿ではありません。それができる人をたたえる風潮がありますが、できた人はすばらしいと言われても、ほんとうは限界がありますから、苦しい人生になるしかありません。人間には絶対にできないことがあると、とても弱いのだと認めることが、人間らしく生きる道です。みんなが長嶋茂雄さんのようにはなれませんし、なる必要もないのです。あなたが

「すばらしいあなた」を演じる必要はなく、自分が何のために、今の姿で存在しているのかを知れば良いのです。あなたがどんな存在なのか、それについてお伝えしたいことがあるのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」